



# 絆プロジェクト

環境

ICT

体力向上

国際理解

キャリア

～ 日常実践の充実を目指した教育活動へのチャレンジ ～

平成29年2月17日発行  
No 19 文責 小室

キャリア

## 誕生学～生まれてきてくれてありがとう～

4年生を対象に高田めぐみ先生による「誕生学」の授業が行われました。

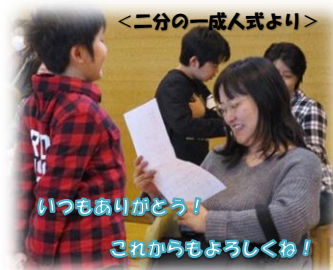
まず初めに高田先生から子どもたちに1つの袋が配られました。その中には小さな小さな穴の空いたカードと1粒のお米。これは一体何なのかなと見ていたら…

「針の先で空けた穴の大きさは0.1mm。人のほじまりの大きさです。そしてそれがお米の粒ほどになると周りの人が赤ちゃんの存在に気付くのですよ。」と高田先生。4年生は、この瞬間、「自分がどのようにお母さんのお腹で大きくなってここまでできたのかすごく知りたい。」と課題をもつことができました。

高田先生は、お腹の中の赤ちゃんがもっている「すごい力」を伝えることで、子どもたちが命の尊さを知り、自分の命・自分自身を大切に思えるようになってほしいという願いをもって授業をしてくださっています。「お腹の中で手や足の指を吸って口の周りの筋肉を鍛えている。」

「おっぱいを飲む練習を積んで生まれてくる。」  
「羊水はよごれたら自分できれいにしている。」  
「うんちはためていて、生まれてから出している。」と、お母さんのお腹の中の赤ちゃんの様子を教えてもらうたびに、今まで知らなかった「赤ちゃんの頃の自分のすごさ」を知り、子どもたちの表情は自信に満ちたものへと変化していきました。また、ものすごく狭くて複雑な「命の道」を誰にも教えてもらっていないのに、たくさんの力を使いながら通って生まれてきたという話を聞いた子どもたちの心に、高田先生が子どもたちに向けて言った「みんなすごいでしょ！」という一言は、大きく響いていました。

そして生まれてからも、抱っこをしてもらったり、話しかけられたり、心にたっぷりの愛情を注がれて大きくなってきたという話から、改めて自分の命も他人の命も大切にするという気持ちや感謝の気持ちをもつことができました。



<二分の一成人式より>

いつもありがとう!

これからもよろしくね!

初めて赤ちゃんが親から生まれるところを見たので、私を生んだときに喜んでくれていたんだ!と思うと、わたしはとてもうれしいです。(赤ちゃんについて)初めて知ったことがいっぱいあり、聞きたいこともいっぱいあります。私の夢は看護師です。高田先生のようになれるようにがんばります。(1組 女子)

ほくたちが、今こんなに大きくなるまで、お母さんたちがいっしょうけんめい育ててくれたとわかってうれしかったです。そして何より、ほくが生まれるときに、お母さんの力だけでなく、赤ちゃんだったほくたちの力もあったということがわかりました。高田先生がいろいろ教えてくれたおかげで、いろんなことを学びました。本当にありがとうございました。(1組 男子)

初めて知ったことは、お母さんは、最初からがんばっているかわかっていたけれど、赤ちゃんもがんばっていたということです。それと、子宮というのも初めて知りました。びっくりしたことは羊水のことです。今まで、体の中の赤ちゃんにしょうげきが伝わったらどうなるのか考えたことがなかったからです。ほくは赤ちゃんのことについて、もっと知りたくなりました。(2組 男子)

今はこんなに大きいのに、最初は0.1mmだったので、とてもおどろきました。命はミルクなどのえいようだけでは生きていけなくて、みんなから「心のえいよう」ももらうことが必要とわかりました。これからのわたしは、ささえてくれた家族などの人におんがえしをしたくなりました。だからいつもみんなに「ありがとう」を伝えたくくなりました。(2組 女子)

ほくは、赤ちゃんがとても好きで、高田先生の話聞いてすごうれしかったです。赤ちゃんのことをもっと知りたかったので勉強になりました。子宮のことが心に残っています。子宮は赤ちゃんの部屋だとわかってよかったです。最後にみたビデオは感動しました。命がどれだけ大切かがわかりました。ほくはこれからも、命を大切に生きていきたいです。赤ちゃんが生まれてきたときの喜びや大切さをこの日でわかった気がします。(3組 男子)

私は初めて赤ちゃんの大きさを知りました。0.1mmほどの大きさだった私たちが、こんなに大きくなったのはきせきだと改めて考えました。私は、命が生まれてくるのに、こんなにたくさんの人たちががんばって生まれてくるのを知りませんでした。ですが、高田先生の話やDVDをみたりして、命のことを考えました。これから、高田先生の話や忘れずに、誕生日を世界で一番幸せな日にしたいと思います。(3組 女子)